

ニューヨーク在住のジャズ・シンガー、 伊東友子が提示する NYテイストの新たな“ブラジリアン・ジャズ”



伊東友子(vo)

ニューヨークにはチャンス求めて沢山の人が集まってくる。別にそれは音楽に限ったことではない。逆に考えると、彼の地での出会いがきっかけで、いつの間にか未知の領域に入っていくことも珍しくない。音楽ならジャズを志して渡米したもの、いつしか別のエッセンスが混ざり込む。そんなこともよくあるのだが、在NY23年になる伊東友子もそういったシンガーの一人だ。

日本ではロックバンドを組んでいたという伊東。1994年に渡米してニューヨーク市立大学シティカレッジに入学。ロン・カーターに目をかけられたのという。もちろん当時はジャズを志していた。

「シティカレッジの時に受けたラテン・アンサンブルのクラスでの課題でボサノヴァの〈おいしい水 (Agua De Beber)〉をビッグバンドと共に歌うことになりました。この曲は卒業制作でミニ・アルバムを作った時にも入れたのですが、そのあと、ブラジル人ミュージシャンにポルトガル語の発音がまるでなっていないとダメ出しされてレッスンを受けるようになりました」

実を言うとニューヨークはブラジル音楽事情においても一目置くべき場所。大御所アーティストもここを拠点に活動しているし、ライブハウスにもブラジル系アーティストが多数出演している。

「ソーホーの“Cupping Room”とかユニオンスクエアの“Coffee Shop, Zinc Bar”などに出演している彼らと接する機会が増え、私にとって学校のような感じでした」

ここで伊東はジャズと並行してブラジル音楽の世界にも踏み込むことになる。

「2006年からは私のファーストアルバム『Mania De Você』のプロデューサーでベーシストのイタイグアラ・ブランゴンから言葉と楽器のレッスンを受けたのだけど、すごく厳しくて20曲完璧に歌えるようになるまで、ライブをやるなって言われて……生懸命練習しましたね」

こうして新作となる『エスペランサ』を含めて3枚のアルバムを制作した伊東。それを通して現在の彼女は「ブラジリアン・ジャズ」を看板に掲げている。単なる「ブラジリアン・ミュージック」ではないジャンルを唱えるのはどういうことか。

「私が思うジャズの定義というのは、インプロバイズ（即興）です。同じ曲でも誰も同じような演奏はない。これぞジャズです。一方でブラジル音楽には、素晴らしいリズムが沢山あります。サンバ、アフォシェ、バイアオン……そういった多彩なリズムに、ジャズ的なインプロバイズを組み合わせたものだとは私は、解釈しています」

先日、羽田のお寺で聴いた伊東の歌いっぷりは、確かに彼女が言うところの「ブラジリアン・ジャズ」だった。ピアノの演奏もニューヨークで活躍するピアニストだからということもあるが、原曲のスタイルにこだわらず、自在に歌い上げるスタイルに、これまでとはまた違ったブラジル音楽の魅力が引き出されている感覚を覚えたものだ。

ニューヨーク、マンハッタンから流れ出す新しい波に、伊東も乗っているという間違いないだろう。



「エスペランサ」(Fury Bath Face Record New York)

Esperança / 伊東友子



本格的にブラジルに乗り込んだというだけあり歯切れの良いリズムがあって大袈裟なフェイクなしの直球で勝負

1994年よりニューヨークに渡りジャズ、そして近年はブラジル音楽を追求する伊東の三作目のアルバム。タイトルが示す通りのポジティブな作品に仕上がっている。粘りを含んだ伸びのある力強い声質を活かしつつ、英語、ポルトガル語、そして日本語でも唄う。本格的にブラジルにも乗り込んで学んだというだけあり歯切れの良いリズムが歌にあって大袈裟なフェイクなしの直球で勝負する場面でも説得力がある。オーセンティックなジャズの要素も十分に感じられるが、エリオ・アルベス率いるピアノトリオを中心とした演奏陣のバックアップも素晴らしい。有名な日本語曲は日本語で歌われているが流麗なブラジリアン・アレンジになっていて、シンガー、演奏者の一体感あってこそではないだろうか。そのあたりも伊東の歌がメンバーをその気にさせているからなのだろう。現地でライジングスターと評価されていることもうなづける。また個人的には名手ホメロ・ルバンボのギターがリズムックでキレ味も良く、かつ流麗で感情的なプレイについて耳が奪われる。

(鈴木りゅうた)

■①ヴェラ・クルス ②ムーン・リヴァー ③ソ・ダンソ・サンバ ④マニャ・デ・カルナヴァル ⑤終わりのない季節 ⑥マドレーナ ⑦コメサール・ジ・ノーヴォ ⑧ボンタ・ジ・アレイア ⑨ストールン・ウォーター ⑩ヴィヴェンシア〜オブセッション ⑪翼をください ⑫ホワット・ア・ワンダフル・ワールド ⑬Esperança

■伊東友子(vo) オリエンテ・ロベス(f) エリオ・アルベス, 福森道華(p) ホメロ・ルバンボ(g, per, vo) リチャード・E.ミラー(g) エドワード・ペレス(b) アクサンドレ・カウツ(ds, per) ルイサ・ルバンボ(vo) 2017年3月2,3日NYで録音

■ディスクユニオン Funny Baby Face Record, New York FBFR-1703 11月22日発売 3,000円(税別)